



## 自動車総連、第30期前半期の活動をスタート!

### 第52回大会を開催

自動車総連は9月7日~8日の両日、東京ビッグサイト国際会議場において大会を開催した。

#### ●金子会長挨拶(要旨)

#### ●来賓挨拶

#### ●報告承認事項

- ◆一般経過報告
- ◆第29期後半期決算報告

#### ●議事

- ◆第1号議案: 役員選挙の件
- ◆第2号議案: 顧問・政治顧問・法律顧問委嘱の件
- ◆第3号議案: 第30期運動方針(案)
- ◆第4号議案: 第30期前半期予算(案)
- ◆第5号議案: 退任役員表彰の件



挨拶する金子会長

第52回大会第1日目は会田中央執行委員(日野労連)の司会で開幕し、金子会長の挨拶に続いて国内外の来賓からご挨拶をいただいた。報告承認事項の審議では、「一般経過報告」、「第29期後半期決算報告」が承認され、これをもって第1日目を終了した。

第2日目は議事として「役員選挙の件」について投票を行った後、「顧問・政治顧問・法律顧問委嘱の件」、「第30期運動方針(案)」、「第30期前半期予算(案)」がそれぞれ承認された。最後に「退任役員表彰の件」が承認され、第52回大会は終了した。



議長: 松尾 代議員  
(全国マツダ労連)



議長: 外崎 代議員  
(ダイハツ労連)

参加者全員による「がんばろう三唱」



第30期新役員





金子 晃浩 会長

# 産業の大変革期の只中で各種課題への取り組みを加速し、あるべき社会づくりに着手する

## 経済・産業の現状認識

世界経済はパンデミックが鎮静化し、ロシアによるウクライナ侵攻に伴う急激なエネルギー価格の高騰も鈍化傾向となり、世界全体としては緩やかな回復が続いている。一方で、欧米などを中心にインフレ傾向が続き、各国政府も金融引締め策に乗り出しており、コロナ禍から急回復を遂げた中国でも、足元では輸出の伸び悩み、個人消費の落ち込みなどにより景気が減速してきている。今後も世界経済の動向には引き続き注視が必要である。

日本経済においては、新型コロナウイルスによる影響から脱し、個人消費や生産・輸出入なども徐々に回復傾向にあり、実質GDP成長率は2022年度に1.4%と増加した。一方で2023年度は足元ではガソリン代の高騰が深刻な状況であることや、引き続き消費者物価上昇の懸念から、政府見通しでは1.3%と伸びは緩やかなものになっている。

自動車産業を取り巻く足下の状況は、昨年までの半導体等の部品不足による厳しい生産・販売環境からは脱しつつある。一方で依然として円安の進行や物価上昇傾向にあり、部品不足の長期化、さらには北朝鮮問題や台湾有事などの地政学的リスクを抱える等、安定した回復軌道に乗せていくためにはまだ様々な課題が山積している。中長期的には「2035年新車販売100%電動化」、「2050年カーボンニュートラルの実現」と言った具体的な課題に直面しており、大変革期の真っ只中にある。

## 来期の運動の方向性について

### 「来期に臨むにあたっての課題意識」

製造業の就業者数は1202万人から1045万人と157万人減少しており、さらに34歳以下の若年層比率は31.4%から25.2%と6.2ポイントも下がっている。日本は急激な少子高齢化が進行しており、何もしなければ、今後もその潮流は変わらないことが予測される。

既に製造現場や車両整備士、大型ドラ

イバーなど広範囲で深刻な人手不足が起きており、将来はさらに供給不足・需要不足、またはその両方によって課題が顕在化してくるものと予測される。

労働力すなわち“人材の価値”は今後益々高まっており、産業・企業が生き残っていくためには、現在の深刻な人手不足の解消と、将来に渡っていかに人材を確保・育成するにかかっている。したがって、我々はこの点をこれから一層強く主張し、あるべき社会づくりに着手していく。

## 人材確保策の推進

### 「人材確保に向けた基盤づくり」

将来に向けた人材確保と失業なき雇用移動のスキームを構築するために、産業雇用安定センターと連携協定を締結した。これは喫緊の雇用問題を想定したディフェンシブなものではなく、あくまでも将来に渡り平時から広く産業内で、人材確保を持続可能にするためである。今後、各社が既存事業からの転換や企業統合といった変化に果敢にチャレンジする後ろ盾や後押しとなるようつなげていく。

## 取引適正化の取り組み推進

### 「強靱なサプライチェーンの構築」

日本の自動車関連産業を維持・発展させていくためには、メーカーや大手だけでなく中小も含めた強靱なサプライチェーン全体の構築が不可欠である。昨年来取り組んできている取引の適正化は欠くことができない。

6月に公表された中小企業庁の「価格転嫁フォローアップ調査」結果では、「自動車・自動車部品」は全体27業種中、前回の17位から20位と順位を下げ、低位に甘んじている。この結果が全てとは言いが切れないが、産業全体ではまだ十分な価格転嫁がなされていないとの認識である。

この状況がさらに続くと、結果、人材流出による人手不足とも相まって、日本の基幹産業である自動車産業が築き上げてきた、巨大なバリューチェーン自体の維持が困難になってくる恐れもある。産業労使で本腰を入れて取り組みをさらに加速させていく必要がある。

## 働く者の魅力向上に向けて

### (来春に向けて)

### 「働く者の魅力向上」

産業内に人を確保するためには、そこで働く全ての者にとって物心両面からの魅力を高めていく必要がある。組合員やその家族の声にどれだけ応えられるかが、労働組合の存在意義にもかかわってくるものと認識している。

そのためにはまず、ジェンダー平等・多様性をはじめ高齢者や障がい者、非正規で働く仲間など、あらゆる働く者にとって魅力ある職場とすべく、また社会の進度に遅れることなく、政策制度、運用、意識とあらゆる面から職場環境を改善し、包摂性も高めていく必要がある。

そして労働条件に関する優先順位も依然として高いと認識している。今次春の取り組みでは、企業での深刻な人手不足、物価上昇による生活棄損への対応が労使の共通認識となり、結果、全体としてここ数年にない大幅な賃上げを実現するなど、非常に大きな成果を挙げることができた。また、非正規雇用で働く仲間や未組織取引先の従業員への波及、さらには日本経済好転への機運作りにも一定程度貢献できたと考える。

来春の方針策定は年明けになるが、この取り組みを本年単発で終わらせるのではなく、全ての仲間の賃金水準をさらに引き上げていくことで日本経済の好循環に寄与し、産業内での人材を確保し、国際競争力を維持・向上させていく必要がある。他にも、外国人労働者の問題や、それに関わる人権デュー・ディリジェンスの取り組みの必要性なども重要な観点として挙げられる。

## 政策実現に向けた取り組み

衆議院選挙では、顧問議員の所属する国民民主党の公認候補を中心に支援し、党勢拡大に向けて取り組んでいく。また、政治活動の目的は政策実現であることに鑑み、所属政党に関わらず人物本位で推薦候補者の選定も進めていく。

2025年7月に予定されている参議院選挙に向けても、組織強化活動との認識のもと着実に取り組みを進めていく。

## 来賓挨拶

来賓として、連合 芳野友子会長、金属労協 (JCM) 神保政史副議長、国民民主党 玉木雄一郎代表にご出席いただき、それぞれご挨拶をいただいた。



連合 芳野会長



金属労協(JCM)  
神保副議長



国民民主党 玉木代表

## 海外来賓挨拶

海外来賓として6組織の方々にご出席をいただき、代表としてITUC 郷野晶子会長、IndustriALL 松崎寛書記次長、UNI Apro ラジェンドラ・アチャリヤ地域書記長にご挨拶をいただいた。



ITUC 郷野会長



IndustriALL  
松崎書記次長



UNI Apro  
アチャリヤ地域書記長

## 報告承認事項

### 一般経過報告

「第29期後半期の活動全般について」、「2023年総合生活改善の取り組み総括」について報告し、全会一致で承認された。



並木 事務局長



東矢 副事務局長

### 第29期後半期決算報告

「第29期後半期決算報告」について報告し、全会一致で承認された。



増田 企画総務局局長



佐俣 会計監査

満場の拍手をもって報告承認事項を承認



## 第1号議案 役員選挙の件

第30期役員が提案され、全員が信任された（新任役員一覧は、P5に記載）。

## 第2号議案 顧問・政治顧問・法律顧問委嘱の件

第30期顧問・政治顧問・法律顧問の委嘱について提案され、全会一致で承認された。

## 第3号議案 第30期運動方針（案）

第30期運動方針について提案され、全会一致で承認された。

## 第4号議案 第30期前半期予算（案）

第30期前半期予算について提案され、全会一致で承認された。

## 第5号議案 退任役員表彰の件

退任役員表彰について提案され、全会一致で承認された。

### 退任役員

今大会をもって以下の24名の方が退任されました。これまでの自動車総連活動へのご尽力に感謝するとともに、今後の活躍をご祈念いたします。

#### 三役

|       |                   |
|-------|-------------------|
| 鶴岡 光行 | 前副会長／全トヨタ労連       |
| 八角 慎一 | 前副会長／三菱自動車ふそう労連   |
| 中川 義明 | 前副会長／全本田労連        |
| 森口 勲  | 前副事務局長／全本田労連      |
| 戸村伸一郎 | 前副事務局長／全国マツダ労連    |
| 東矢 孝朗 | 前副事務局長／全トヨタ労連     |
| 安部 輝実 | 前副事務局長／三菱自動車ふそう労連 |

#### 中央執行委員（非専従）

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 川崎 俊輔 | 前中央執行委員／日産労連    |
| 佐伯 啓朗 | 前中央執行委員／日産労連    |
| 仲 宏訓  | 前中央執行委員／全本田労連   |
| 手島 洋  | 前中央執行委員／全国マツダ労連 |
| 久保 順裕 | 前中央執行委員／ヤマハ労連   |
| 佐藤 哲也 | 前中央執行委員／部品労連    |

#### 中央執行委員（専従）

|       |                |
|-------|----------------|
| 古川 貴之 | 前中央執行委員／全トヨタ労連 |
| 増田 全孝 | 前中央執行委員／全本田労連  |
| 中島 基史 | 前中央執行委員／全本田労連  |

#### 常任執行委員

|       |                |
|-------|----------------|
| 村上 瑞紀 | 前常任執行委員／全トヨタ労連 |
| 渡部 修  | 前常任執行委員／全トヨタ労連 |
| 石川 雅教 | 前常任執行委員／日産労連   |
| 江川 佳子 | 前常任執行委員／スズキ労連  |
| 川見 名央 | 前常任執行委員／日野労連   |
| 雪嶋 秀樹 | 前常任執行委員／ヤマハ労連  |
| 田中 清文 | 前常任執行委員／部品労連   |

#### 会計監査

|      |            |
|------|------------|
| 乾 紘樹 | 前会計監査／部品労連 |
|------|------------|



退任される役員のみなさん

#### 退任役員代表挨拶



鶴岡 前副会長  
(全トヨタ労連)



八角 前副会長  
(三菱自動車ふそう労連)



中川 前副会長  
(全本田労連)



金子 晃浩 会長

## 新任役員とともに、常に先頭に立ち 自動車総連運動を進めていく

まず圧倒的多数で信任されたことに対しお礼を申し上げます。また退任者24名のこれまでの貢献について感謝を申し上げ、益々のご活躍を祈念致します。

自動車産業をとりまく環境は厳しく、様々な課題が山積していますが、自動車総連の諸先輩方が培ってきた良き伝統を受け継ぎ、職場に根差し、愚直に着実にま

じめに取り組んでいくことを積み重ねながらこの産業で働いていて良かったとこれからも、いつまでも感じてもらえる魅力ある産業づくりに貢献していきたいと思えます。新任役員とともに、常に先頭に立ち労働運動、自動車総連運動を進めていくことを決意のいったんいたします。ともに頑張りましょう！

### 第30期新任役員

#### 三役

|                       |                      |                      |
|-----------------------|----------------------|----------------------|
| 会 長 金子 晃浩 (全トヨタ労連)    | 副 会 長 前田 了二 (全本田労連)  | 副事務局長 平野 康祐 (全トヨタ労連) |
| 副 会 長 久重 道正 (全国マツダ労連) | 永瀬 秀樹 (三菱自動車ふそう労連)   | 佐藤 好一 (全本田労連)        |
| 寺門 勉 (日産労連)           | 事 務 局 長 並木 泰宗 (日産労連) | 富田 悟史 (全国マツダ労連)      |
| 西野 勝義 (全トヨタ労連)        |                      | 藤川 大輔 (三菱自動車ふそう労連)   |

#### 中央執行委員

##### (非専従)

|                |                    |
|----------------|--------------------|
| 吉清 一博 (全トヨタ労連) | 原田 悟 (全国マツダ労連)     |
| 鬼頭 圭介 (全トヨタ労連) | 藤川 裕之 (三菱自動車ふそう労連) |
| 小川 敬太 (全トヨタ労連) | 松崎 兼二 (三菱自動車ふそう労連) |
| 轟川 隆行 (全トヨタ労連) | 武藤 憲司 (スズキ労連)      |
| 大喜多 宏行 (日産労連)  | 川又 敏之 (SUBARU 労連)  |
| 水清田 聡 (日産労連)   | 森 茂喜 (ダイハツ労連)      |
| 高橋 壮太 (日産労連)   | 鈴木 桂 (全いすゞ労連)      |
| 岡本 政彦 (日産労連)   | 会田 和博 (日野労連)       |
| 土肥 孝太 (全本田労連)  | 平野 雅紀 (ヤマハ労連)      |
| 徳永 隼人 (全本田労連)  | 岡田 照明 (部品労連)       |

##### (専従)

|                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 西谷 涼子 (全トヨタ労連)    | 政策局 局長             |
| 城生 雅浩 (日産労連)      | 政治局 局長             |
| 金持 史宣 (全トヨタ労連)    | 組織局 局長             |
| 岡野 芙由美 (全トヨタ労連)   | 業種政策局 局長           |
| 粕谷 強 (日産労連)       | 国際局 局長             |
| 池田 智香子 (全本田労連)    | 労働政策局局長 (働き方・最賃担当) |
| 宮下 祐太 (SUBARU 労連) | 労働政策局局長 (労働条件担当)   |
| 繁野 慶一 (全トヨタ労連)    | 企画総務局 局長           |

#### 特別中央執行委員

|                    |        |
|--------------------|--------|
| 山本 昌弘 (全トヨタ労連)     | 連合派遣   |
| 森田 義之 (全トヨタ労連)     | 連合派遣   |
| 富田 珠代 (日産労連)       | 連合派遣   |
| 平川 秀行 (三菱自動車ふそう労連) | 金属労協派遣 |
| 春田 雄一 (スズキ労連)      | 連合派遣   |

#### 常任執行委員

|                   |          |                |          |
|-------------------|----------|----------------|----------|
| 小野 裕也 (ダイハツ労連)    | 政策局 部長   | 渡邊 浩司 (スズキ労連)  | 業種政策局 部長 |
| 山本 健太 (全トヨタ労連)    | 政治局 部長   | 小沢 翔平 (日野労連)   | 業種政策局 部長 |
| 岡崎 哲也 (日産労連)      | 組織局 部長   | 徳田 和宏 (全トヨタ労連) | 国際局 部長   |
| 伊与田 紀之 (全本田労連)    | 組織局 部長   | 入佐 昌和 (ヤマハ労連)  | 労働政策局 部長 |
| 古賀 敦男 (全国マツダ労連)   | 組織局 部長   | 薦 真人 (全いすゞ労連)  | 労働政策局 部長 |
| 松丸 拓也 (日産労連)      | 業種政策局 部長 | 熊谷 芙美子 (全本田労連) | 労働政策局 部長 |
| 鈴木 誠 (三菱自動車ふそう労連) | 業種政策局 部長 | 竹内 弘明 (部品労連)   | 企画総務局 部長 |

#### 会計監査

|       |           |
|-------|-----------|
| 佐俣 光男 | 全いすゞ労連    |
| 寺田 秀典 | SUBARU 労連 |

#### 職員

|        |                 |       |       |
|--------|-----------------|-------|-------|
| 前田 麻依子 | 組織局 / 政策局 / 政治局 | 後藤 久子 | 企画総務局 |
| 齋藤 亜沙美 | 業種政策局           | 小泉 優子 | 企画総務局 |
| 北野 絹子  | 国際局             | 川下 明子 | 企画総務局 |
| 今野 美香  | 労働政策局 部長        | 金村 乃美 | 企画総務局 |
| 時藤 紀子  | 労働政策局           |       |       |

#### 企画総務局主任推進役 礎 基之

#### アドバイザー

|       |
|-------|
| 江口 実  |
| 安部 輝実 |

第30期運動方針が決定されたことを受けて、自動車総連加盟12労連の代議員が意見表明を行った。その後、各労連の意見に対して本部の並木事務局長からコメントを発表した。



## 全トヨタ労連 星野 代議員 自動車産業課題への対応力強化について 魅力ある産業、選ばれる企業に向けて

人権DDをはじめとしたグローバル運動も、適正取引・価格転嫁の取り組みも、この自動車産業に人材が集まり、持続的な産業になるためには必ず進めないといけないことである。その意味でも、自動車総連には賃金水準や年間の休日・労働時間、また両立支援や60歳以降の働き方も含め、より魅力ある職場・労働条件にしていくべく、各労連及び加盟組合をリードしていただくことをあらためて願う。



## 日産労連 谷川 代議員 運動への期待と 役割発揮について

自動車総連は、諸課題の解決に向けて、12労連と一丸となって取り組んできており、将来に向けても、「自動車総連の役割・責任の発揮」に対する期待は大変大きい。日産労連は、自動車総連第30期の運動方針をしっかりと受け止め、組織結束の基、力強く、活動を積極的に進めていく所存であり、自動車総連の力強い78.6万人の仲間と共に、職場最先端まで、理解・納得・共有する活動に総力をあげて取り組む。



## 全本田労連 廣沢 代議員 「自動車産業の魅力」について

産業の大転換期と言われる自動車産業は、働き方の変革、人材確保、格差是正、適正取引などへの対応が不可欠であり、とりわけ人材確保には産業の魅力が求められる。自動車産業としての魅力の位置づけをどのように捉え向上させていくのか、自動車産業で働く者の代表である自動車総連の強いリーダーシップをお願いするとともに、全本田労連も働く側から産業を守り、発展させるために活動を積み重ねていく。



## 全国マツダ労連 福田 代議員 企業の魅力向上への取り組みについて

組合員数は減少傾向にあり、私たちは企業を残すことを真剣に考えなければならない。離職防止として継続して「企業の魅力向上に取り組む」事を方針に掲げているが、具体的に何をすればよいか労使ともに見いだせていないのが現状。特に休日に関する要望は多く聞かれているが、人手不足の中で個社や労連単位での休日増の要求は極めてハードルが高い。自動車総連には交渉の強力な後押しを期待する。



## 三菱自動車ふそう労連 児玉 代議員 困難な時代を乗り越えるための 労連としての姿勢と決意

産業としては未来に向かって前進している一方、産業の第一線で働く者からすれば混沌として先が見えておらず、この状況でこそ、12の労連が集う自動車総連のスケールメリットが最大限に生きるものと考え。各種業種別部会、委員会を通じた活動を推進していただきながら、これからの自動車産業が抱える多くの難題を乗り越えるためのさらなる付加価値を我々とともに見出していきたい。



## スズキ労連 山本 代議員 労働時間の短縮と人材確保

取り巻く環境について、産業形態の変化、経営環境の変化のスピードがとて速くなってきていることを肌で感じている。自動車総連の方針にある「自動車産業で働くすべての人が生き活きと働き、安心して生活できる職場や労働条件、社会」を実現していくため、自動車総連本部には、運動の推進役として各運動方針に掲げた項目の深掘りと、各局間の横串を通す運営をこれまで以上に図っていただきたい。



### SUBARU労連 吉本 代議員

#### 産業政策の推進と魅力ある 産業実現に向けた自動車総連 への期待

自動車産業の発展と雇用の維持、産業政策の推進と産業の魅力向上に向けて、12労連が一枚岩となれる施策と力強い推進を期待する。とりわけ、裾野の広い自動車産業の総労働時間短縮においては自動車総連全体での推進が不可欠と捉えており、強力なリーダーシップをお願いする。SUBARU労連としては厳しい環境の中でも、職場の仲間とともに前向きに取り組むことを決意し、全力で諸活動を推進していく。



### ダイハツ労連 堀江 代議員

#### 年間休日増の取り組みについて (総労働時間短縮に関する取り組み)

ダイハツ労連は自動車総連内で比較しても総労働時間が長く、低減は大きな課題である。改善に向け、所定外労働時間や年休取得などについては各労連・個別企業労使で取り組むことができるが、年間休日については自動車総連全体で取り組まなければ前進させるのが難しい。労連加盟単組の労働時間短縮に対し、メーカー休日増は大きな波及効果があるため、自工会への働きかけなど、自動車総連として旗振りしていただくことを期待する。



### 全いすゞ労連 鷹野 代議員

#### 自動車総連に期待する役割と 労連としての対応

私たちを取り巻く環境が大きく変化する中、自動車総連の方針では、産業内・外を取り巻く諸課題に的確に対応し、産業全体の健全な発展、そして、業種・規模・雇用形態にかかわらず、だれもが「安心して生き活きと働き、生活できる職場と社会の実現」に向けた具体的な方針が確立されたと捉えている。総労働時間の短縮や職場のジェンダー共同・多様性の実現に向け、自動車総連共闘のもと着実な取り組みをお願いする。



### 日野労連 古澤 代議員

#### 自動車産業の大変革期に向け、 日野労連の目指すべき未来

日野グループ内には労働組合がない企業が多く、組織的な労使関係がないため、組合づくりと仲間を増やす取り組みが求められる。大変革期の中でより強く頼りになる労働組合を作っていくためにも、将来の労連運営と活動を担う人材育成を支えるべく、計画的な人材配置を推進するとともに、各種役員の教育においても、効果的な人材育成の機会を増やし継続できる体制の構築を進めなければならない。



### ヤマハ労連 太田 代議員

#### 自動車総連・12労連 一体となった取り組み

私たちを取り巻く環境は、先行き不透明な状況が続いている。自動車産業を取り巻く課題も山積しているが、働く仲間の明日の安心、自動車産業の魅力向上に向け、また自動車産業に相応しい賃金・労働時間・職場環境・働き方の実現のために、自動車総連にけん引役を担っていただきたい。12労連の仲間の思いを結集させ、取り組みを進めることで、自動車産業で働くすべての仲間の幸せにつなげていただくことを期待する。



### 部品労連 悴田 代議員

#### 自動車部品産業の発展と 魅力向上に向けて

100年に一度の大変革期を受け、部品企業が生き残りをかけて新たな技術開発に死力を注ぐ中で、生産性向上や原価低減と同時に産業構造の転換も求められ、現状では明るい未来を描くことは大変難しい。加盟単組の組合員が、誰一人取り残されることのないよう、中小の環境改善や体質強化に繋がる取り組み、また魅力ある自動車産業の実現に向けた取り組みを優先課題として進めていただくことを期待する。

## 本部コメント

頂いたご意見・課題を30期の各種部会や委員会、執行委員会などにおいてしっかりと論議し、活動が前進できるよう皆さんと一丸となって取り組んで参りたいと思います。ともに頑張りましょう！



並木事務局長

## 皆さんと連携して政策の軌道修正を図る

自動車総連組織内議員 参議院議員 磯崎 哲史



日頃から我々組織内議員の活動に本当に力強いご支援をいただいておりますこと、心から感謝を申し上げます。

本年は4月に統一自治体地方選挙がありました。皆さんにお支えいただきましたこと、改めて、この場をお借りして感謝を申し上げます。ありがとうございました。

引き続き浜口さんと足並みを揃え自動車産業の代表として活動し、一つでも多くの問題解決に向けて、しっかりと汗をかいて、皆さんにお返しをしております。

さて、本年5月からの新型コロナの5類への移行に伴い、皆さんと直接お話をさせていただく機会が増えました。こうした中で、政府方針のGX（グリーン・トランスフォーメーション、いわゆるカーボンニュートラル）に関し、産業構造の大転換に伴う失業等の切実な不安の声を多数いただいております。

そこで、先の通常国会において、政府提出法案の「GX推進法案」の基本理念に「公正な移行」（失業なき労働移動）の文言を加筆する修正案を取りまとめ、可決へと繋げました。参議院において野党からの提案で法案が修正されたのは8年ぶりのことでした。今後も、本件に関するリスキリングやリカレント教育といった学び直しの機会の充実も含め、アクセルを踏み続けます。

また、「労働条件の見直し」や「賃上げの環境づくり」等についても、浜口さんと連携を図りながら、法改正も含むルール作りの見直しを進めてまいります。

政治が頓珍漢な方向に行ってしまうまいように、しっかりと皆さんと連携を図らせていただきながら、政策の軌道修正を国会の現場で図ります。引き続き、私たち組織内議員の活動へのお力添えの程、どうぞよろしく願いいたします。

いそざき議員の本年上半期の活動ダイジェストを動画でご覧ください！



二次元コードはこちら

## ガソリン代値下げ、自動車整備士不足対策推進に取り組む

自動車総連組織内議員 参議院議員 浜口 誠



自動車総連の皆さんには、日頃から、全国各地で仲間の各級議員をご支援いただき、ありがとうございます。また、今年は、統一地方選や各地の中間地方選でも、仲間の挑戦を力強く支えていただき、感謝申し上げます。

自動車ユーザーの皆さんから、ガソリン代高騰、何とかしてください！

との強い要望を多くいただいております。国民民主党は、6月20日にガソリン代の値下げを含む、物価高騰対策を政府に要請しました。政府は、8月の後半ようやく重い腰を上げ、10月以降ガソリン等への補助金を打ち切る方針を撤回し、10月以降も補助金支給を延長する方針です。一歩前進ですが、私たちは減税によってガソリン代を下げる、いわゆるトリガー条項の凍結解除&発動を2年前から政府に提言しています。今後も、ガソリン代値下げに向け、①補助金の来年3月末まで延長 ②トリガー条項発動 ③当分の間税率、二重課税（タックスONタックス）の廃止、この3点セットで政府に粘り強く提案していきます。

また、自動車整備士不足に関しては、これまで国会でも何度も取り上げ岸田総理や国土交通大臣とも議論してきました。その活動の成果として、新たな対策も動き始めていきます。具体的には、①学校の社会科授業で、整備士の職場見学 ②7月後半から9月中旬の夏休み期間での高校生、大学生、専門学校生による整備士の仕事体験プログラム ③10月のジャパンモビリティショーにおける自動車整備士ブースの初出展 ④「自動車整備士の働きやすい職場ガイドライン」の検討等、行われています。今後も、車社会に不可欠な存在である自動車整備士不足対策の推進に向けて、全力で取り組んでいきます。変わらぬご支援を、よろしくお願いいたします。

はまぐち議員の活動をYouTubeチャンネルでご覧ください！



二次元コードはこちら